

図書の郵送貸出

2021年1月18日(月)まで

遠隔授業のため、登校できない学生の皆さんを対象として、図書の郵送貸出を行っています。貸出冊数は2冊まで。2冊以上借りたい場合は、借りている2冊を返却してください。LCセンターからの郵送物には、返却用の専用封筒(レターパック)なども同封しています。

返送費用もLCセンターが負担します。返却は、2階カウンターに直接返す、または返却用の専用封筒をご利用ください。

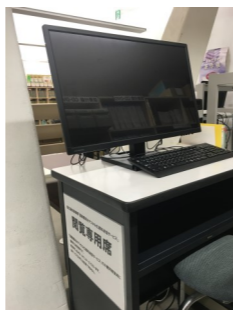


入口のポスター

NDLデジタルコレクション 図書館限定送信資料の利用開始

国立国会図書館(NDL)のサイトで提供している「デジタルコレクション」では、NDLが所蔵する図書、雑誌をはじめ、さまざまな資料をPCから閲覧できます。

2020年8月24日より、LCセンターでも「図書館限定送信」の資料を閲覧できるようになりました。学内の方なら、どなたでもご利用になれます。利用したい方は、2階カウンターにお申し出ください。



閲覧専用端末

電子資料の一部を学外でも利用できます。

学内LANに接続された端末から、アカウント登録をすると、学外でも一部の電子資料を利用することができます。LCセンターのホームページ(<http://lib.nit.ac.jp/>)から左メニューの「情報検索」より利用できます。

●電子ブック

・Maruzen eBook Library (アカウントの有効期限は3ヶ月)
建築関係の図書、「マイナビ」などの就活本、「地球の歩き方」などを読むことができます。

・EBSCO eBooks (アカウントの有効期限は1年間)
「マンガでわかる」シリーズ、「TOEIC」「電験」などを読むことができます。

●電子ジャーナル

・IEEE (アカウントの有効期限は3ヶ月) 米国電気電子学会と英国電気工学会が発行する定期刊行物などを読むことができます。

・ScienceDirect Elsevier社の発行する科学・技術・医学・社会科学分野の論文を読むことができます。

※「電子情報通信学会通信ソサエティ:技法アーカイブ」「土木学会」は、ID・パスワード制です。LCセンターにお問い合わせください。



青塔秋号を発行しました。

秋号は、大学生活や研究テーマを中心に、主に新任の教職員の皆さまを中心にご寄稿いただきました。LCセンター内で配布しています。ご自由にお持ちください。リポジットでも公開中です。

LCセンター2階特集展示

9/29(火)~10/14(水)「海を守れるのは誰？」
NIT-EMSとの連動企画として、環境関連の展示を行います。

10/19(月)~11/21(土)
「先生と先輩がすすめる本」

250文字ブックレビューの紹介図書を中心に展示します。

※期間等は、変更になる場合があります

開館カレンダー (変更になる場合があります。)

10月 October							11月 November							12月 December							2021年 1月 January						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5						1	2
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30
																					31						

通常開館日	9:00-20:30	休館日	日曜・祝祭日・本学休業日	短縮開館日	9:00-17:00	変更開館日	10:00-16:00
-------	------------	-----	--------------	-------	------------	-------	-------------

日本工業大学LCセンター ニュースレター 息抜きの散歩道 Vol.14

編集・発行/日本工業大学LCセンター 〒345-8501埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
発行日:2020年10月10日 ホームページ <http://lib.nit.ac.jp>

新しい生活様式と図書館

新型コロナウイルス感染防止のため、大学でも休校や遠隔授業などを実施しました。LCセンターも4月13日から5月31日まで休館となりました。再開後も、新しい生活様式に対応して、利用ルールが一部変わっています。

●長期閉館

2020年4月13日より、大学への立ち入りができなくなり、LCセンターも閉館となりました。

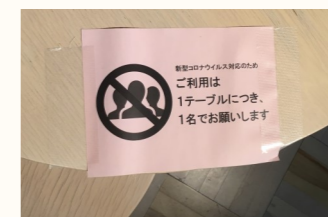
閉館中も、利用者からのメールでの問い合わせに応じていました。国内外のデータベース、電子ブック、電子ジャーナルの提供元が、無料開放や一部開放を始めたのもこの時期です。

5月11日より遠隔授業がスタートしたのに併せて、スタッフも出勤し、ホームページやサポータルでの情報提供を再開。図書館ガイダンス資料も新たに作成し、遠隔授業によるフレッシュマンゼミに提供しました。ご覧になった方もいらっしゃるのではないでしょうか。

●再開館

6/1にLCセンターが再開館しました。新しい生活様式に合わせて、ソーシャルディスタンスの確保のために、座席を一部閉鎖、カウンター

には飛沫防止用の透明カーテンを設置しました。また、返却された図書は、48時間後に書架に戻す対策を実施中です。



●学生への支援

遠隔授業のため、キャンパスに来る機会の少なくなった学生への支援として、図書の返却期限の延長や延滞の罰則猶予、学生への図書の郵送貸出を行いました。また、学外から利用できる電子資料や、WEBサービス「ブックログ」での特集展示など来館せずに利用できる資料もあります。

※特集展示「ブックログ」はLCセンターホームページにリンクがあります。学外から利用できる電子資料については、4面「LCセンターから」をご覧ください。

●皆さまへのお願い

・館内では、マスクを着用してください。カウンターでは利用者用のマスクをご用意しています。マスクを忘れた方は、カウンターにお申し出ください。

・手指の消毒、手洗いをお願いします。

・図書は不特定多数の人が触りまです。図書に触る前と触ったあとは、手を洗ってください。

・書架でパラパラと内容を確認した図書も返本台に戻してください。

・館内ではソーシャルディスタンスを確保してください。



ご協力をお願い致します。

※図書の一定時間の隔離によるウイルス感染リスクの低減

日本図書館協会「Covid-19に向き合う」<http://www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabid/854/Default.aspx>
「図書館資料の取り扱い(新型コロナウイルス感染防止対策)」について一人と資料を守るために
<http://www.jla.or.jp/Portals/O/data/iinkai/hozon/日本図書館協会資料保存委員会.pdf>

貸出ランキング

集計期間:2020年4月1日~2020年9月30日

- 『宮本常一「忘れられた日本人」を読む』 網野善彦/著 岩波書店/刊 (4回)
- 『わかりやすいOPアンプ入門』 相良岩男/著 日刊工業新聞社/刊 (3回)
- 『メカニズムの事典』 伊藤茂/著 オーム社/刊 (3回)

電車で、カフェで、ページをめくっているあの人は、
どんな本を読んでいるのでしょうか？

250文字ブックレビュー

先生のオススメ本から、
新たな扉、開いてみませんか。

『大学教授が、「研究だけ」していると思ったら、大間違いだ！』 斎藤 恭一/著 イースト・プレス/刊

377.13

Sa 25

配架場所：4階

「授業以外はどんな仕事をしていますか」と学生に問われることがある。「研究ですね」と胸を張りたいところだが、今年は「遠隔授業の資料作りかな」と答えるようにしている。今回紹介する話題の書は、国立大学退官後にまとめられた著者の奮闘記であり、「大学は研究機関であってはならない」という教員が語る大学事情でもある。高校や予備校での所属学科のPR、研究室での学生指導、教授会や各委員会の大学という組織、研究費獲得などの仕事が具体的に綴られている。「あとがき」では大学関係者へのメッセージも記している。行間から学生への厚い思いがみてとれ、学生の皆さんもオンライン受講の合間に斜め読みしてみてもどうだろうか。

黒津 高行（建築学科）

『才能をひらく編集工学：世界の見方を変える10の思考法』

安藤 昭子/著 ディスカヴァー・トゥエンティワン/刊

002.7

A 47

配架場所：3階

アイデア出しで困っている学生に。これは出版関係の本ではありません。広くプロダクトやサービスも含めた企画・アイデア発想から設計までを、「編集工学」という言葉に込めています。世の中には、いろんな前例やヒントが満ち溢れています。新しいことをやる時に、全く何もないところから構築する必要はほとんどなく、既にあるモノゴトを「編集」することで、新しいモノゴトを生み出していく考え方や手法について、平易に教えてくれる良書です。

細田 彰一（機械工学科）

『大人のための図鑑 脳と心のしくみ』 池谷 裕二/著 新星出版社/刊

491.37

N 97

配架場所：5階

サスペンスやホラーの小説や映画を観るとドキドキしますよね。感じるのは脳なのに胸が高まるのはなぜ？と思いませんか？そんな喜怒哀楽を感じる私たちの脳の仕組みを、分かった気にさせてくれるのがこの本です。イラストも数多く使われていて、理科の教科書風なのですが読んでみると物語風でとても読みやすいと思います。例えば、臨死体験として語り継がれている事実も脳の働き（仕組み）でほぼ解明できていることが容易に理解できます。ちょっと気が向いたときにパラパラと読んでみたらいかでしょうか？タイトル通りまさに大人の図鑑です。

大澤 正久（応用化学科）

『はたらく細胞 2巻』 吉田 はるゆき/著 講談社/刊



コミックスのため
未所蔵です。

コロナ禍で世界中が大変な事になっていますね。ウイルスと同じように感染・増殖する細菌、特に歯周病菌について調べていたところ本書にたどり着きました。口内は300種類以上の菌が暮らしています。その中でおそろしい菌の一つ歯周病菌を知っていますか？成人の8割が歯周病だとか。歯周病菌は虫歯で歯ぐきが炎症・出血し、その血を栄養に増殖します。さらに血管から全身にまわって宿主を病気にします。また歯周病はコロナに感染すると重症化する可能性も高いそうです。本書は漫画本のため、そんないろんな菌の働きが絵解きで理解りやすく書かれています。皆さん手指の消毒だけでなく口腔ケアも忘れずに！

平栗 健史（電気電子通信工学科）

『1分で話せ 日世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』

伊藤 羊一/著 SBクリエイティブ/刊

336.4

I 89

配架場所：4階

大学ではレポートや卒業論文の作成や、卒研発表をはじめとする多くのプレゼンテーションを行います。これらは、自分の目的、例えば、レポートや学術論文の場合は導いた結論を読み手に伝えること、を達成することが大切です。しかし、この目的を達成するためには、最初に目的を明確にする必要があるのですが、初めてレポートや論文を書くときには、この目的を意識することができず、日記や感想文になってしまいがちです。この本は、この目的を意識する方法をわかりやすく解説しています。是非、レポート作成前に一読してみてください。

樋口 勝（ロボティクス学科）

『科学哲学の冒険 サイエンスの目的と方法をさぐる』 戸田山 和久/著 日本放送協会/刊

401

To 17

配架場所：4階

「おぼけがいると思っているなんて、科学的じゃないねえ」など言ったりします。科学的じゃないって悪いことなのでしょうか？科学だけ特別なのでしょうか？そもそも科学って何でしょうか？「そう言われてみれば」と思ったあなたにこの本をおすすめします。

佐藤 進也（情報メディア工学科）

『伝奇集』 ホルヘ・ルイス・ボルヘス/著 岩波書店/刊

963

B 65

配架場所
2階文庫・新書

ブエノスアイレス市立図書館の司書であった男はやがて幻想的な短い小説を書くことで有名となり、晩年にはアルゼンチン国立図書館の館長に任命された。ミシェル・フーコーの「言葉と物」の冒頭に作品のひとつが印象深く引用されたことでも知られている。この短編集の中でたぶん最も世界の読書人に衝撃を与えたのが「バベルの図書館」で、表明されているのは「ライオン」、「トラ」、「ウサギ」、及びすべての他の動物のリストの中に「動物」という項目を並べることと同じである。概念とメタ概念を混交する眩暈や自己撞着を問う作風が秀逸。

西本 真一（建築学科）

『大本営発表 改竄・隠蔽・捏造の太平洋戦争』 辻田 真佐憲/著 幻冬舎/刊

210.75

Ts 48

配架場所：3階

今や、でたらめや嘘ばかりの「信用できない情報の代名詞」(本文より引用)である大本営発表だが、本来は戦時中、日本の陸海軍部が行なった国民向け戦況報告である。この大本営発表、当初精度は高かった。それがなぜ、でたらめや嘘ばかりになったのか？軍部と報道機関の癒着が指摘されるが、それだけではないと本書は言う。戦後75年、大本営発表など遠い昔だ。自分には関係ない。はたしてそうだろうか？本書を読み終えたとき、自分こそが「大本営発表」を支える一員だったことに気づく。歴史を勉強する本当の意味を教えてください。くれる一冊。

高岡 邦行（共通教育学群）